

全国曹洞宗青年会

SOUSEI

2013.11 No.163

共に

しもふる
SHIMOHURO
下風呂温泉郷
← 大畑 OHATA 薬研渓流 →
大間 OOMA 大間崎

曹洞宗とは
曹洞宗の歴史と文化
曹洞宗の修行と生活
曹洞宗の宗義と思想
曹洞宗の宗風と精神

特集
副会長座談会
想いを繋ぐキーマンたちに聞く



特集 副会長座談会

想いを繋ぐ キーマンに聞く

「繋がる想いが未来を拓く」をテーマに掲げ、全曹青に関わる全ての人々の想いを繋げるべく、その活動の第一歩を踏み出した第20期全曹青。

今回の特集では、櫻井会長を支えながら、今期の全曹青の諸活動の管理・運営を推進する立場である副会長3人に、活動に取り組む想いを聞きました。

司会 副会長を引き受けた際の心境、そして意気込みをお聞かせください。

がら、精一杯努めます。

安達 副会長のイメージとしては、熱意のあまり暴走する会長にすっかりブレーキを掛ける役割だと思っております。会長を中心に、青年僧侶だからこそできる、熱い活動をしていきたいです。

膝館 平成24年5月に、全く予期していません中、副会長推薦のお話をいただきました。

当初は、自坊にて普請の計画が進んでおり、平成25年から本格的に始める予定でしたので、戸惑いがありました。お檀家さんたちや家族に対しても、このタイミングにお引き受けすることに関しては複雑な気持ちでしたね……。しかしながら、東日本

岩崎 九州管区で推薦してくれた人の想いを大切に抱いて、また「全面的にバックアップする」という有難い後ろ盾に支えられな

大地震復興支援のため、また、全曹青を通して全国へ東北の意見を届けるため、届け

たいという想いからお引き受けしました。ぜひ、全国各地に足を運ばせていただきました。

司会 副会長就任前の、ご自身の全曹青との関わりや、全曹青に対してどんなイメージや印象をお持ちでしたか？

安達 18期から参加させていただいており、前期は総合企画委員長として活動させていただきました。最初に全曹青を身近に感じたのは、平成17年の台風23号による兵

庫県豊岡市の水害でした。全国からボランティアにお越しいただいたのを覚えていますが。全曹青は「遠い存在？あまり関わりがない？」というイメージでしたが、会員であり宗門の青年僧侶であるからには、全国と繋がるこの組織について、知らなければならぬとその時強く感じたのを覚えていきます。

岩崎 私が所属する熊本曹洞宗青年会（以下熊曹青）が、管区の九州曹洞宗青年会に所属しているのはわかっていましたが、全曹青に

第20期副会長

安達瑞樹

A d a c h i Z u i z y u

櫻井会長を中心に 熱い活動を展開します



加盟していることは知りませんでした。ですから、熊曹青の会員が全曹青の会員だと知ったのはつい最近のことです。正直申しますと、全く別箇の特別な団体だと思っていました。

会長として、会長の代理で評議員会・総会等に出席いたしました。全曹青に対する印象として持っていたのは、事業の数の多さに対する驚きですね。

膝館 第18期全曹青の久間会長の代に、東北地協の事務局長として基幹事業等のお手伝いとして受付窓口を担当しました。また、前期（第19期）は、青森県曹洞宗青年会副

司会 実際に副会長を務めて数か月経過しましたが、全曹青に対してそれまでに持っていたイメージや印象がどのように変化しましたか？

安達 副会長の重責、大変さを身にもって感じております。しかしながら、会長や副会長のお二方をはじめ、精鋭の皆さまと充実した活動ができて楽しくも思っております。

岩崎 「全曹青は、全国の各曹青会の連絡協議体である」と聞いた時に、すんなり膺落ちしました。独立した特別な団体の1つではなく、情報を共有しあって協働で活動する団体。もしくは、その協働活動をサポートする受け皿的な会議体であることがわかりました。櫻井さんというユニークで会務に長けた会長さんをサポートする副会長が3人いるわけですが、安達さんはバリバリの全曹青戦士みたいな人で、そのユーモアに富んだ人間性と行動力が魅力的ですね。膝館さんは、外見からはちよっと推し量れないのですが、実に繊細な気配りと類まれな慈愛に満ちた人です。たぶん、現執行部の中では一番優しい方なんじゃないでしょうか。そして、熊本弁丸出しの私がいる、と。

膝館 事業数の多さは相変わらずといった印象ですが、副会長として、会議・行動範囲・活動内容等を客観的に見てみますと、僧侶としての理想を追い求め、実行力があり、可能性のある団体であるという印象が強いです。

司会 それぞれの担当範囲、これまでの活動及び今後の活動予定や意気込みをお聞かせください。

安達 総合企画委員会と災害復興支援部を担当させていただきます。19期から東日本大震災復興支援事業として、総合企画委員会と災害復興支援部にてワークショップや

写経プロジェクトなど、協働で事業を行ってきました。全国の想いを共有する活動です。今後も被災地支援を通して全国と想いを繋ぐとともに、今後の災害を踏まえ、全曹青本来の存在意義である連絡協議体の力を発揮し、災害情報ネットワークの構築を加盟団体、各協力団体と進めてまいります。また40周年を迎え、この事業が全国各曹青会同士の更なる繋がりを生むことを期待しております。

岩崎 『観世ふおん』特別委員会を担当させていただいています。40周年記念事業実行委員会と共に、『傾聴研修会』を開催してまいります。この時代の青年僧侶が、素養のひとつとしてすでに持っている『聴く能力』を互いの気づきや学びの中で深めあうような研修会を目指して、プログラム・講師・テキストを策定しております。第18期の基幹事業として開設された、青年僧侶による電話相談事業『観世ふおん』のこれまで4年間の実績と、東日本大震災の行茶ボランティアの際に高く評価された傾聴活動の姿勢と



傾聴を通して純粹な 青年僧の意識共有を

第20期副会長

岩崎 哲秀

I w a s a k i T e s s h u

技術を学びます。傾聴を通して人と人とがつながりあい、青年僧侶同士、上も下もなく純粹なところで、意識を共有できる機会になればと思います。

膝館 広報委員会と災害復興支援部とを担当させていただいていますが、広報委員会においては、長岡広報委員長をはじめ、広報委員の皆さんに、基本的にはお任せしている状態です。今後についても、基本的にはお任せするつもりですが、ホームページ『般若』のリニューアル等については、意見があれば出したいと思っています。私の役割は、会員諸師から、全曹青の広報に対するご意見やご要望をお聞きし、それを会務に反映させていくことです。積極的にお寄せいただければと思っています。災害復興支援部については、少しずつではありますが、これまでの活動を見直し、マニュアル化を進めております。昨今、激甚災害が増えており、それに対する早急な対応が必要となります。今後はより一層、マニュアルに基づき、迅速的確な情報の収集、発信が大事となります。さらに、東日本大震災で被災された地域や方々に対する復興支援活動は、終わることなく続けるべきです。今後も、全国の皆さんに、情報の発信と、支援のお願いを継続したいと思っております。

司会 今期の全曹青の活動全体に関して、心がけたいことや意気込みをお聞かせください。

安達 全曹青の活動についてもっと多くの方に周知いただけるよう、更なる情報の発信、各団体との連携を行ってまいります。

岩崎 できることが限られている中で、「できることをできるだけ」やりたいです。

膝館 櫻井会長の活動範囲が多岐にわたりますし、40周年記念事業もありますので、会長のサポートはさることながら、会務運営がスムーズに進むよう精進したいと思います。また、全国各地の各曹青会に足を運び、会員各位との意見交換、意思疎通を図れればと思っています。

司会 最後に、全曹青会員各位へのメッセージや呼びかけをお願いします。

安達 私は、全曹青に参加させていただいた当初、「メリットはあるんだろうか？」と考えておりました。あれから5年が経ち、それは、知らぬ間に衣の袖をぬぐうがごとく、自身に染み込んでるように思います。皆さまもぜひ、傾聴研修会や災害メーリングリスト、被災地復興支援や世界各国の仏教徒との交流など、まずは一緒に活動いただきたいです。肝心なのは、皆さま自身でメリットを作ることであり、この貴重な体験を毎日の布教活動に活かしていただくことではないでしょうか。皆さまのご理解とご協力をお願いします。

岩崎 いつか全曹青が、全国の曹青会会員の皆さまと共に、「みんなの青年会」「僕たちの青年会」と呼ばれるようになればいいなと思います。概念を超えて「わたしたち」という主語を考えたときに、一体感をもって協働する人の集まりになることを心から願います。

全国の曹青会と一層の意思疎通を

第20期副会長

膝館 晋哉

Hizata te Shinsai



膝館 今期は全曹青創立40周年の節目の年です。傾聴研修会をはじめとした、全曹青が企画・実施する活動にぜひ積極的にご参加いただきたい。また、災害復興支援、災害救援についても、情報収集・発信、また、支援活動に積極的に関わっていただきたいですね。

些細なことでも、できる範囲でも結構です。青年会という組織、青年僧侶であるがゆえに今できること、を全曹青の仲間とともに、実行し、修行していただければと思います。

文・構成／広報委員長 長岡俊成

管区理事ごあいさつ 2

各管区に所属する曹洞宗青年会の相互連絡を図り、また、全曹青の理事として全曹青と各曹青会との橋渡しや情報共有を担う管区理事。前号に引き続き、各理事の所信をご紹介します。

◆近畿管区理事 森孝基

近畿管区理事の任を受けまして一年が経過しました、19期松岡会長のもと全曹青のお手伝いをさせていただき、当初は何をしてよいのやら分からずに諸先輩方にアドバイスを求めたばかりの1年でした。本年は40周年という節目を迎えるに当たり、20期櫻井会長を始め各執行部・管区理事の皆さまと共に、より全国の青年僧侶の交流が益々盛んになるよう精進いたします。近畿管区の皆さまにおかれましてはご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



◆中国管区理事 城市泰紀

今年度より中国管区理事に就任いたしました石見曹洞宗青年会の城市泰紀と申します。18期広報委員、19期庶務として参加させていただきました。今期は40周年にあたり、執行部・各委員会とも激務になることが予想されますが、管内の各青年会とのパイプ役として責務を全うしたいと思います。中国管内ではいずも曹洞宗青年会が主管として、11月19日20日の2日間に渡り、現代の葬儀について考える内容の管区大会が開催されます。今期より会費も上がり、支出の透明性が求められると思います。その点も踏まえ理事会に臨みたいと思っております。2年間よろしくお願いいたします。



◆四国管区理事 里野和敬

第20期全曹青は、40周年記念という大きな節目でもあります。四国での事業としては『ごども自然ふれあい広場』を行います。未だ放射線被ばくを危惧しながらの生活を余儀なくされている福島と四国の子どもの交流を深め、のびのびと外で遊んでもらいたいという事業です。四曹青を中心に、四国のご寺院様方のご協力をいただき進めてまいります。この交流により、今期のスローガンにもあるように子どもたちがお互い繋がり、お互いを思い、そしてこれからの未来を拓いてくれると思えます。私は理事として、四国管区と全曹青・各管区青年会との意見交換や相互活動の橋渡しとなり、未来へ繋がり拓けるよう精進してまいります。

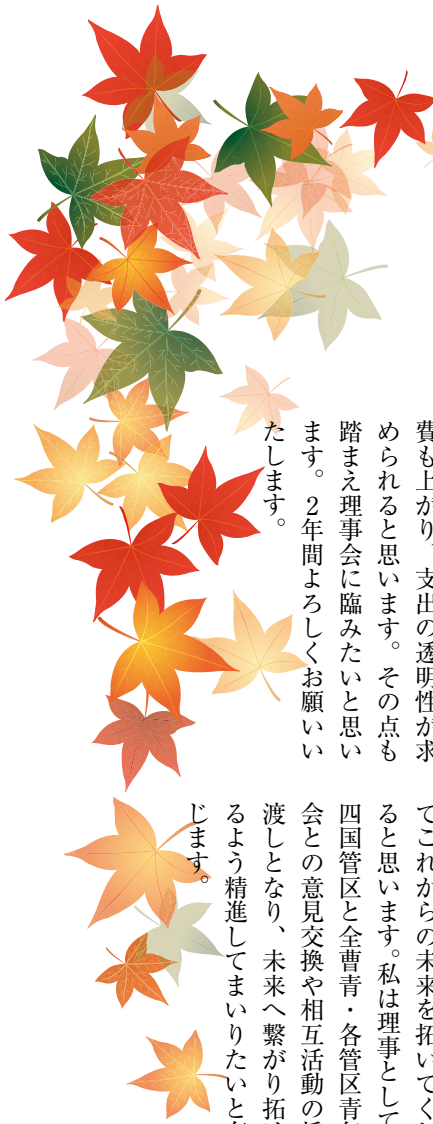


◆九州管区理事 田中光顕

この度、第16期九州曹洞宗青年会会長の任を仰せつかることとなりました。併せて九州管区理事も務めさせていただきますこととなりました。九曹青としては、各県曹青会のとりのつなぎの場・交流の場として、また、全曹青とのとりつなぎの場として毎年開催される球技大会・総会が更に充実するように努めてまいります。



また、全曹青の40周年にあたり各種の研修会が予定されていますので、一人でも多くの会員の皆さまの参加が得られるよう働きかけていきたいと思います。これからの二年間、「九州はひとつ」「生きる力・命の力を取り戻す」という二つのスローガンの元、他の管区が羨むような会になるよう、九曹青の執行部、会員一同、精一杯駆け抜けてまいりますので、皆さまのご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



また、全曹青の40周年にあたり各種の研修会が予定されていますので、一人でも多くの会員の皆さまの参加が得られるよう働きかけていきたいと思います。これからの二年間、「九州はひとつ」「生きる力・命の力を取り戻す」という二つのスローガンの元、他の管区が羨むような会になるよう、九曹青の執行部、会員一同、精一杯駆け抜けてまいりますので、皆さまのご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

守り伝えられし大切な伽藍、
私どもの技と経験がお役に立てれば幸いです。

社寺建築のカナメ

新築・改修・屋根工事・耐震

株式会社 **カナメ**
http://www.caname-jisha.jp

■ 本社 栃木県宇都宮市平出工業団地38-52
■ 名古屋支店 愛知県一宮市森本4-15-23
■ 岡山営業所 岡山県岡山市北区今8丁目13-13

電話：028-663-6300
電話：0586-71-2882
電話：086-245-2541

東日本大震災復興支援レポート

東日本大震災復興支援活動

「納経塔」「活動の灯」設置される

全曹青では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災以降、被災地での傾聴活動を中心とした様々な支援活動を今日まで継続して参りました。

震災より2年半以上が経過いたしました。全曹青では、ご承知の通り被災地の復興は遅々として進まず、また、原発事故はいっこうに収束の見通しが立っておりません。様々な問題・課題が山積みである現況を直視するにつけ、東日本大震災は過去の出来事ではなく、未だ現在進行形の問題であることを実感いたします。今後の支援活動の更なる広がりを目指す道標・祈りの拠り所として、更には「あの日を忘れない」という誓いの

【納経塔】

震災発生から2年目となる本年3月11日には、この未曾有の経験に対して被災地内外を問わず全国の方々が心から祈りを捧げていただけよう、福島市音楽堂において三回忌法要を開催いたしました（主催：全日本仏教青年会）。

全曹青では、この法要に併せて「写経プロジェクト」を実施しております。全国から被災地に向けられている「想い」を「お写経」という形に変えて、犠牲者の追悼慰霊をする

とともに被災地復興を祈願するためのプロジェクトです。この寄せられた写経を一ヶ所に集約し安置するため、「納経塔」造立事業が企画立案されました。

平成25年7月22日、福島県伊達市成林寺様境内（旧全曹青災害復興支援現地本部）で納経塔開眼法要並びに復興祈願法要

を厳修しました。小雨の中、成林寺方丈様、ご家族様を始め、この事業に携わった関係者各位をお招きし、また、全曹青19期・20期執行部、及び曹洞宗福島県青年会の要職にある方々にもご参列いただき、懇ろなご焼香を賜りました。全国から集まったお写経を奉納し、未永く安置されとともに、私たちの心の拠り所としていつまでもあり続けることを願って止みません。

【活動の灯】

「活動の灯」は、『東日本大震災復興支援の活動拠点として、全曹青有意の青年僧侶が参集し、その活動に専心した場所』（記念碑台座の文より抜粋）に建立された記念碑です。

平成25年7月22日には、宮城県における全曹青の活動拠点となった角田市の自照院様で、同年9月4日には、岩手県における全曹青の活動拠点となった山田町の龍泉寺様で「活動の灯」安置法要を厳修しました。

龍泉寺様では11時より本堂にて、東日本大震災物故者慰霊・復興祈願法要を、櫻井会長を導師にお勤めさせていただきました。引き続き、当日の小雨が一旦止んで晴れ間も見える中、建立された「活動の灯」前に移動し、安置諷経として般若心経を誦経し、復興支援活動の継続を改めて祈念いたしました。法要後には客殿にてお茶を頂戴しながら、発災当初から全曹青の活動拠点としてご協力・ご尽力をいただいた龍泉寺様での出来事を語り合い、また今後の復興支援活動について、活発な意見交換が行われました。

全国から被災地に寄せられた写経を安置する【納経塔】



平成25年7月22日、福島県伊達市成林寺様境内（旧全曹青災害復興支援現地本部）で納経塔開眼法要並びに復興祈願法要

福島県伊達市の成林寺にて厳修された納経塔開眼法要



自照院様と龍泉寺様に建立された「活動の灯」



祝賀・献花御礼

- 成林寺 様
- 柳沼泰衛 様
- 清巖寺 様
- 東光院 様
- 長谷寺 様
- 光明寺 様
- 榮林寺 様
- 自照院 様
- 東北地区曹洞宗青年会連絡協議会 様
- 曹洞宗福島県青年会 様
- (有) 酒井建築 様
- (株) 石のカンノ 様
- (順不同)

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。

この度もご協力いただき誠に有難うございました。

●熊本県第1
48 神照寺 様
60 含蔵寺 様

●熊本県第2
88 明德寺 様

●宮崎県
6 祐国寺 様
14 妙光寺 様
22 大雄寺 様
49 如法寺 様

●鹿児島県・沖縄県
14 絃昭寺 様

●長野県第1
38 耕雲庵 様
105 福泉寺 様
147 徳応院 様
162 大聖寺 様
280 龍泉院 様
335 陽泰寺 様
369 金窓寺 様

●長野県第2
374 三光寺 様
375 龍雲寺 様
386 西福寺 様
389 宗福寺 様
400 長久寺 様
474 長桂寺 様
493 吉祥寺 様
551 多宝院 様
565 阿弥陀寺 様

●福井県
27 龍澤寺 様
47 瑞祥寺 様
69 龍門寺 様
272 洞善寺 様
305 向福寺 様

●石川県
75 大覚寺 様

●新潟県第1
344 玄德寺 様
350 定光寺 様
364 永明寺 様
384 庄川寺 様
389 雲居寺 様
390 東禅寺 様
397 善昌寺 様
439 林興庵 様
448 真福寺 様
451 正圓寺 様
475 天昌寺 様
477 龍泉院 様
496 長楽寺 様
728 妙喜寺 様

●新潟県第2
681 総源寺 様

●新潟県第3
521 松泉寺 様

535 普光寺 様
619 寶壽院 様
646 名立寺 様

●新潟県第4
19 林照寺 様
38 興泉寺 様
44 百観音院 様
53 英林寺 様
82 養廣寺 様
147 延命寺 様
189 東泉寺 様
228 雲泉寺 様
239 千眼寺 様
255 龍泉院 様
258 善福寺 様
288 宝蔵寺 様
295 瑞濟寺 様
297 瑞雲寺 様
304 東泉寺 様
738 不動寺 様
817 日照寺 様

●福島県
3 陽林寺 様
10 佛母寺 様
44 玉泉寺 様
45 高国寺 様
46 龍傳寺 様
62 仙林寺 様
79 西松寺 様
101 成林寺 様
104 成願寺 様
105 天正寺 様
110 龍徳寺 様
174 龍徳院 様
199 瑞祥寺 様
212 東林寺 様
226 常隆寺 様
231 円通寺 様
246 長徳寺 様
254 同慶寺 様
263 慶徳寺 様
274 龍門寺 様
318 安穩寺 様
324 松泉寺 様
343 西勝寺 様
352 大同寺 様
400 定林寺 様
461 正法寺 様

●宮城県
7 保寿寺 様
9 瑞雲寺 様
24 妙心院 様
35 龍雲院 様
69 見松寺 様
102 吉祥寺 様
141 自照院 様
163 普門寺 様
203 洞雲寺 様
212 祥雲寺 様
228 瑞川寺 様
263 西林寺 様
271 願成寺 様
293 梅溪寺 様
310 洞福寺 様

327 観音寺 様
330 天星寺 様
352 安永寺 様
359 保昌寺 様
371 頼光寺 様
425 通大寺 様
432 耕田寺 様
440 城國寺 様
446 柳徳寺 様
465 松岩寺 様
475 城皇寺 様
478 活牛寺 様

●岩手県
7 永祥院 様
25 宝積寺 様
35 實相寺 様
111 西泉寺 様
123 寶城寺 様
133 大林寺 様
171 光西寺 様
223 洞雲寺 様
226 長林寺 様
232 龍昌寺 様
233 玉泉寺 様
250 對泉院 様
288 長福寺 様
290 長泉寺 様
295 東海寺 様
303 千手寺 様
319 観音寺 様

●青森県
7 海蔵寺 様
15 梅林寺 様
44 高沢寺 様
45 全龍寺 様
74 浮木寺 様
84 涼雲院 様
110 長昌寺 様
119 大安寺 様
121 脇沢寺 様
122 法林寺 様
176 海昌寺 様
189 乗照寺 様

●山形県第1
11 傳昌寺 様
12 正徳寺 様
13 建昌寺 様
52 柳澤寺 様
66 法体寺 様
81 金勝寺 様
88 智鏡寺 様
93 性源寺 様
113 洞興寺 様
217 圓應寺 様
238 西来院 様
241 福昌寺 様

●山形県第2
315 永泉寺 様
329 高国寺 様
337 満福寺 様
344 蔵高院 様
346 長福寺 様
372 昌傳庵 様

417 繁應院 様
●山形県第3
468 宗伝寺 様
477 福寿寺 様
534 東福寺 様
572 宝台院 様
639 慶全寺 様
672 妙泉寺 様
679 光岩寺 様
718 長測寺 様
735 冷泉寺 様
738 善心寺 様

●秋田県
1 鱗勝院 様
8 天龍寺 様
26 洞泉寺 様
38 眺江寺 様
49 乗江院 様
79 東林寺 様
136 長谷寺 様
179 長泉寺 様
181 黄龍寺 様
184 護昌寺 様
192 善福寺 様
196 春光寺 様
203 瑞雲寺 様
206 松雲寺 様
209 満友寺 様
216 向川寺 様
220 雲巖寺 様
241 安楽寺 様
246 福城寺 様
260 松庵寺 様
261 見性寺 様
265 倫勝寺 様
302 天昌寺 様
313 立昌寺 様
321 鏡得寺 様
341 金浦寺 様
353 安養寺 様

●北海道第1
18 高聖寺 様
25 龍徳寺 様
37 法徳寺 様
45 延命寺 様
75 禅源寺 様
88 玉宝寺 様
90 含笑寺 様
94 曹源寺 様
96 観音寺 様
254 北大寺 様
257 高臺寺 様
327 大宥寺 様
468 養福寺 様

●北海道第2
120 大雄寺 様
171 開原寺 様
239 禅昌寺 様
313 洞源寺 様
338 大仙寺 様
359 東明寺 様
418 萬台寺 様
419 龍門寺 様

454 大禅寺 様
●北海道第3
203 西来寺 様

ボランティア基金感謝録

平成 25 年 6 / 29 ~ 9 / 30
取扱い分

東京都 青松寺 様
東京都 嶺雲寺 様
東京都 龍澤寺 様
東京都 青松寺 様
東京都 清巖寺 様
神奈川県 寿昌寺 様
神奈川県 最乗寺 様
神奈川県 中野東禅 様
神奈川県 天徳院 様
神奈川県 泉秋寺 様
埼玉県 香林寺 様
埼玉県 葉照院 様
埼玉県 廣徳院 様
群馬県 善宗寺 様
栃木県 海潮寺 様
栃木県 長慶寺 様
千葉県 満蔵寺 様
千葉県 宗胤寺 様
千葉県 慶林寺 様
千葉県 永福寺 様
静岡県 盤脚院 様
静岡県 栄昌寺 様
静岡県 正岳寺 様
静岡県 心岳寺 様
静岡県 玉泉寺 様
静岡県 正宗寺 様
静岡県 宗心寺 様
静岡県 瑞龍寺 様
静岡県 林泉寺 様
静岡県 楞澤寺 様
静岡県 高林寺 様
静岡県 龍雲寺 様
静岡県 孤雲寺 様
愛知県 廣濟寺 様
愛知県 吉祥寺 様
愛知県 永澤寺 様
愛知県 智光院 様
愛知県 神龍寺 様
岐阜県 本覚寺 様
三重県 四天王寺 様
三重県 宝泉院 様
京都府 岩屋寺 様
京都府 善光寺 様
大阪府 臨南寺 様
大阪府 陽松庵 様
大阪府 梅旧院 様
奈良県 蔵心寺 様
兵庫県 瑞雲寺 様
兵庫県 向榮寺 様
兵庫県 臨川寺 様
広島県 潮音寺 様
広島県 慶雲寺 様
広島県 延命寺 様
山口県 大源寺 様
島根県 永明寺 様
島根県 龍覚寺 様
島根県 海雲寺 様
島根県 總光寺 様
大分県 勝光寺 様
長崎県 鏡圓寺 様
佐賀県 本覚寺 様
熊本県 龍泉寺 様
熊本県 神照寺 様
熊本県 含蔵寺 様
宮崎県 如法寺 様
鹿児島県 絃昭寺 様
長野県 阿弥陀寺 様
長野県 円応院 様
長野県 陽泰寺 護持会 様
新潟県 瑞雲寺 様
新潟県 普光寺 様
新潟県 林照寺 様
新潟県 不動寺 様
新潟県 不定林寺 様
福島県 瑞祥寺 様
福島県 成願寺 様
福島県 天正寺 様
福島県 高国寺 様
福島県 頌宣寺 様
福島県 正法寺 様
福島県 佛母寺 様
宮城県 観音寺 様
宮城県 龍雲院 様
宮城県 城皇寺 様
岩手県 東海寺 様
岩手県 寶城寺 様
岩手県 観音寺 様
岩手県 長福寺 様
岩手県 菅生院 様
岩手県 宝積寺 様
岩手県 大林寺 様
岩手県 千手寺 様
青森県 海昌寺 様
青森県 法林寺 様
青森県 萬松寺 様
青森県 脇沢寺 様
山形県 昌傳庵 様
山形県 柳澤寺 様
山形県 宗伝寺 様
山形県 金勝寺 様
山形県 山形県 金勝寺 様
山形県 東林寺 様
秋田県 安楽寺 様
秋田県 道貫寺 様
北海道 曹源寺 様
北海道 玉宝寺 様
北海道 萬台寺 様

贊助費淨納御芳名簿

平成25年6/29~9/30取扱い分

●東京都

3 俊朝寺 様
6 光宝寺 様
17 龍澤寺 様
18 大泉寺 様
56 嶺雲寺 様
88 全龍寺 様
90 梅岩寺 様
105 鳳林寺 様
106 觀泉寺 様
160 喜運寺 様
177 清巖寺 様
239 宗保院 様
294 觀栖寺 様
312 光明寺 様
327 新福寺 様
333 雲慶院 様
337 天澤院 様
345 正法院 様
371 円明寺 様

●神奈川県第1

285 泉秋寺 様
374 最乗寺 様
中野東禪 様

●神奈川県第2

2 西有寺 様
5 天徳院 様
10 隋流院 様
15 陽光院 様
77 龍寶寺 様
127 寿昌寺 様
171 常昌院 様
390 善光寺 様
394 長尾寺 様

●埼玉県第1

14 守光院 様
19 宝積寺 様
44 宝持寺 様
59 長龍寺 様
64 寿楽院 様
79 葉照院 様
92 浄山寺 様
93 光秀寺 様
110 香林寺 様
190 廣徳院 様
200 清岩寺 様
394 香林寺 様
416 昌福寺 様
418 全久院 様

●埼玉県第2

207 蓮光寺 様
256 豊泉寺 様
283 長泉寺 様
319 永源寺 様
368 東昌寺 様
567 觀音寺 様

●群馬県

3 龍海院 様
97 元景寺 様
111 雲林寺 様
144 雙松寺 様
194 善宗寺 様

217 正泉寺 様
233 明言寺 様
280 長楽寺 様
285 桃林寺 様
297 福巖寺 様
311 泉通寺 様
317 心洞寺 様
332 戒禪寺 様
338 龍松寺 様

●栃木県

1 成高寺 様
43 東光寺 様
46 龍昌寺 様
62 長慶寺 様
67 海潮寺 様
92 泉溪寺 様
185 本願寺 様

●茨城県

1 祇園寺 様
13 龍泉院 様
41 大雄院 様
46 長松院 様
61 一閑寺 様
134 大統寺 様
160 定林寺 様
182 龍心寺 様
197 長龍寺 様

●千葉県

2 宗胤寺 様
7 満蔵寺 様
10 流山寺 様
20 福壽院 様
21 觀音寺 様
29 慶林寺 様
30 興陽寺 様
48 觀音寺 様
76 全宅寺 様
93 芳泰寺 様
95 寶應寺 様
185 勢國寺 様
194 中滝寺 様
198 太高寺 様
212 真光寺 様
243 最勝福寺 様
244 天南寺 様
315 雲龍寺 様
333 西方寺 様
357 永福寺 様

●山梨県

45 永昌院 様
115 海潮院 様
392 慈照寺 様

●静岡県第1

2 瑞光寺 様
6 龍龍寺 様
40 龍津寺 様
77 龍泉院 様
97 法幢寺 様
109 玉泉寺 様
126 一乗寺 様
148 源光院 様
175 靈山寺 様

180 秀源寺 様
185 光明寺 様
202 先照寺 様
391 十輪寺 様
394 萬松院 様
421 盤脚院 様
459 洞雲寺 様
461 心岳寺 様
463 榮昌寺 様
464 正泉寺 様
495 善門院 様
501 養徳寺 様
510 龍雲寺 様
528 盤石寺 様

●静岡県第2

228 耕月寺 様
259 常雲寺 様
267 修禪寺 様
270 日輪寺 様
319 源光院 様
325 海蔵寺 様
328 林泉寺 様
329 永昌寺 様
355 楞澤寺 様
362 福泉寺 様

●静岡県第3

585 成因寺 様
608 養勝寺 様
629 大覚寺 様
676 孤雲寺 様
678 宗心寺 様
766 正法寺 様
791 春林院 様
831 正林寺 様
834 青龍院 様
920 蓮覚寺 様
973 松向寺 様
1208 法雲寺 様
1236 東光寺 様
1243 洞光寺 様

●静岡県第4

1017 龍泉寺 様
1065 高林寺 様
1081 盛福寺 様
1101 光雲寺 様
1122 林泉寺 様
1127 明德寺 様
1177 礼雲寺 様

●愛知県第1

1 天寧寺 様
15 大光院 様
75 松音寺 様
101 成福寺 様
108 香積院 様
115 桃巖寺 様
127 龍潭寺 様
131 天年寺 様
139 祇園寺 様
156 地藏寺 様
158 秀伝寺 様
173 神蔵寺 様
200 日光寺 様
202 世尊寺 様

231 慶昌院 様
251 玉雲寺 様
255 林光院 様
261 葉師寺 様
312 本曾寺 様
313 長松寺 様
336 弥勒寺 様
342 常楽寺 様
354 廣濟寺 様
607 林宗寺 様
625 宝積寺 様
629 神龍寺 様
635 永澤寺 様
648 徳用寺 様
652 龍光院 様
675 妙昌寺 様
1070 松林寺 様
1092 地藏寺 様
1164 弘禪寺 様
1191 智光院 様
1241 觀音寺 様
1256 大泉寺 様

●愛知県第2

684 花井寺 様

●愛知県第3

431 報恩寺 様
438 吉祥寺 様
484 興昌寺 様

●岐阜県

51 天徳寺 様
75 地藏院 様
81 北辰寺 様
90 林廣院 様
99 靈泉寺 様
153 宗久寺 様
167 正宗寺 様
179 金龍寺 様
188 洞泉寺 様
189 久昌寺 様
190 長久寺 様
218 本覚寺 様
236 全超寺 様

●三重県第1

6 常在院 様
24 一心院 様
37 四天王寺 様
83 涼泉寺 様
113 神楽寺 様
188 廣泰寺 様
246 宝泉院 様
247 瀧原院 様
269 大蓮寺 様
284 常安寺 様

●三重県第2

371 光明寺 様
387 瑞岩寺 様

●滋賀県

113 徳圓寺 様

●京都府

26 岩屋寺 様

34 神応寺 様
70 護国寺 様
73 春現寺 様
79 神応寺 様
80 西光寺 様
161 禪福寺 様
171 太虚寺 様
236 善光寺 様
378 徳昌寺 様
389 万福寺 様

●大阪府

5 臨南寺 様
10 梅旧院 様
12 印山寺 様
26 天徳寺 様
61 大廣寺 様
68 陽松庵 様

●奈良県

26 蔵心寺 様

●兵庫県第1

30 岡本寺 様
49 福巖寺 様
79 常福寺 様
287 向栄寺 様
308 寶珠寺 様
328 善福寺 様
338 勝龍寺 様
341 常巖寺 様
369 大龍寺 様

●兵庫県第2

117 法円寺 様
121 徳寿寺 様
141 松隣寺 様
157 普門寺 様
173 瑞雲寺 様
221 永源寺 様
270 臨川寺 様

●岡山県

3 長川寺 様
4 威徳寺 様
5 景福寺 様
10 長連寺 様
59 觀泉寺 様
131 濟渡寺 様
178 成興寺 様

●広島県

1 国泰寺 様
6 禪昌寺 様
7 伝福寺 様
13 延命寺 様
22 光禪寺 様
26 正福寺 様
46 雙照院 様
93 賢忠寺 様
102 潮音寺 様
118 長善寺 様
143 常林寺 様
146 福善寺 様
175 雲龍寺 様
177 功德寺 様
178 慶雲寺 様

●山口県

24 吉祥寺 様
25 弘濟寺 様
72 真福寺 様
170 大源寺 様
172 広福寺 様

●鳥取県

1 興雲寺 様
82 吉祥院 様
134 精明寺 様
159 大祥寺 様
168 聖福寺 様
185 源泉寺 様

●島根県第1

295 妙義寺 様
305 海雲寺 様
315 永明寺 様

●島根県第2

45 禪覚寺 様
54 雲松寺 様
59 清光院 様
66 浄心寺 様
121 法海寺 様
139 十楽寺 様
159 源入寺 様
195 總光寺 様

●高知県・香川県

18 藤林寺 様

●愛媛県

18 陽春院 様
42 興禪寺 様
93 長命寺 様
104 西林寺 様
113 西禪寺 様
116 法龍寺 様
146 興雲寺 様
148 正福寺 様
164 城慶寺 様

●福岡県

27 長音寺 様
28 桂木寺 様
77 太養院 様
117 長安寺 様
151 大円寺 様
158 報恩寺 様

●大分県

16 勝光寺 様
134 長安寺 様

●長崎県第1

8 円福寺 様
19 晴雲寺 様
26 鏡円寺 様
78 宝泉寺 様

●佐賀県

92 清心寺 様
117 本光寺 様
181 本覚寺 様
213 瑞光寺 様

加盟団体 活動 レポート

福島の子どもたち、 自然とふれあう、思い出深い夏休みを！ 福島子ども支援プロジェクト

曹洞宗長野県第一青年会 福島子ども自然ふれあい広場 in長野

7月27日～30日にかけて、長野県上田市において開催されました。初日は福島駅からバスで長野県上田市に移動。日輪寺様にて開会式の後、この日参加する祭「上田わっしょい」の踊りを、一緒に参加する上田市神川（かながわ）小学校の6年生と保護者

の方と練習しました。夕食時には電が降る悪天候でしたが、踊り開始時には虹も出て好天に恵まれ、祭終了までみんなで汗を流しました。

2日目、上田市真田においては、真田中学校生徒会や真田鉄砲隊のお出迎えの後、そば打ちを体験し、真田中学校のお兄さんお姉さんと打ったそばを一緒に食べました。その後の菅平高原においては、中学生との交流会で森の中の道具を自由に使って遊び（木登り、ブランコ、ハンモック、穴掘り、ターザンごっこ、縄跳び、鬼ごっこ…）一緒に走り回ったりしました。

3日目、あいにくの雨模様で沢登り体験は中止になりましたが、天然木やアクセサリーを使ったカステネット作りでは、みんな、思い思いの飾りを付けて、個性的なカステネットを作り演奏しました。キャンプ場での「青竹クーヘン作り」では、熱した青竹を軸に、生地を塗っては焼きの繰り返しで、見事なパウムクーヘンができました。その後は全員参加のバーベキューをし、花火大会やキャンプファイヤーを楽しみました。

4日目、長野市善光寺様にて本堂にお参りの後、班別に分かれて参道を散策してお土産を購入するなどし、その後バスにて福

島駅に向かい、解散式となりました。

雨の日も晴れの日もありましたが、ほぼ全ての日程を全員参加で楽しく終えることができました。福島から来てくれた子どもたちの笑顔に加え、長野県の神川小学校の皆さん、真田中学校の皆さんとの交流も皆が楽しそうで、主催者側としても笑顔で4日間楽しく過ごすことができました。

秋田県曹洞宗青年会

子ども自然ふれあい広場

男鹿なまはげ教室

7月28日～30日に向け、秋田県男鹿地域において開催されました。5時間のバス移動を経て、まず船越観光案内所の大なまはげ像の前で記念撮影し、開催中の「おが太鼓フェスティバル」を観覧しました。参加者は太鼓チームの子どもたちということもあり、非常に楽しんでいる様子。観覧後はステージに上がり、腕前を披露しました。

夜は「テラネタリウム」と題し、東京でプラネタリウムの解説をされていた岩館祐章師による星座の観察会が行われました。地元の人たちと一緒に星座にまつわるお話を聞き、その後満天の星空を見上げて観察を行いました。天の川まで見える素晴らし

い星空に歓声が上がりました。

2日目は「なまはげ」を体験すべく、男鹿真山伝承館、なまはげ館を見学。その後、五里合海岸で待ちに待った海水浴。快晴で気温も高く、絶好の海水浴日となりました。疲れ知らずの子ども達は思い切り泳ぎました。お昼はバーベキュー。またポニーが暴れん坊將軍のテーマ曲で登場し、乗馬体験も楽しめました。

夕食後は、男鹿温泉郷交流会間「五風」に移動し太鼓の時間です。練習をした後、二本松「和雅美太鼓」、川俣「織姫太鼓」の2チームの息をのむ素晴らしい演奏に、地元の方や観光客からは拍手喝采でした。太鼓のこととなるとキリっとした表情。海水浴での笑顔とは別人の様です。その後地元



中学生と森遊び



「上田わっしょい」に参加

太鼓演奏披露



なまはげ体験



のなまはげ太鼓のチームの演奏を観覧し、大人の太鼓の迫力を楽しみ、一緒に記念撮影して交流しました。男鹿は和太鼓が盛んなこともあり、和太鼓を通じて住民や観光客との交流、また子どもたちにとつての自己表現の場とすることができました。

海と太鼓でお疲れの3日目朝、近くの雲昌寺で坐禅とお参りをし、感想の寄せ書きを書いて日程を終了しました。昨年「白神ぶなっこ教室」から2回目の参加者が多く、親しみをもって、安心してご参加いただけようです。各方面より多大なるご協力、ご賛助をいただきました。誠にありがとうございました。

四国地区曹洞宗青年会 第2回こども自然ふれあい広場inしまなみ

8月19日〜22日までの4日間、愛媛県越智郡上島町(生名島・弓削島)において、四国管区教化センター主催の『こども禅キャンプ』と併催されました。

1日目の早朝に福島駅に集合。交通機関を乗り継ぎ、生名島へ到着しました。開講諷経、開会式、オリエンテーションの後、「人形劇屋おたこ組」による人形劇。夕食・入浴の後、翌朝からの坐禅の仕方を教わり、各部屋に分かれて就寝しました。

2日目は6時に起床し、坐禅・朝のお勤め、布教師の方からのお話、朝食、掃除を行いました。その後、上島町弓削離島体験交

流施設「せとうち交流館」へ移動しての離島交流体験。木工・竹トンボ作りなどに分かれ、地元の方に教わりました。午後からの海水浴では、瀬戸内の静かな海で、上島町の職員が指導・監視してくださる中、安心して元気いっぱい遊びました。そして、夕食はバーベキュー。和尚さん達が焼いた食材を美味しくほおぼっていました。カメラを向けると、みんなっこりピース。夕食の後は、砂浜で花火もしました。

3日目は、禅キャンプに参加していた四国の子どもたちとお別れです。教化センター職員の指導による写仏では、それぞれのお地藏さまを描きました。閉会式禅キャンプ終了証授与式)の後、四国の子どもた



大人気だったバナナボード



全員で記念写真!

ちに見送られて生名島を後にしました。弓削島の宿泊施設に到着した福島の子どもたちは、対岸で海水浴。バナナボートは行列ができる程の大盛況で子どもたちの満喫した笑顔は忘れられません。

最終日。上島町長が駆けつけてこられた中での離島式。そして、広島県因島までフェリーで渡り、最後のお見送り。スタッフ一同、バスが見えなくなるまで手を振っていました。しかし、これは最後ではなく、再会の誓いなのかもしれません。希望の誓いともいえるでしょう。当事業にご賛助いただいた各御寺院・各団体・個人、ご協力いただいた各団体、各御寺院へ勧募にまわってくれた四国曹青会各位のほか多くの皆さまに紙面を借りて厚く御礼を申し上げます。



全日仏青 ニュース

去る8月25日～30日福島県いわき市において、全日本仏教青年会主催・国際仏教徒青年交換プログラム／IBYE (International Buddhist Youth Exchange) が、公益財団法人全日本仏教会 (JBF)、世界仏教徒連盟 (WFB)、公益財団法人仏教伝道協会 (BDK) ほか諸団体協賛のもと開催されました。

IBYEとは、仏教を通じて将来の社会的リーダーの育成と国際交流、伝統仏教のグローバル化を目的として世界仏教徒青年連盟 (WFBY) が世界各国で長年取り組んでいる青少年育成プログラムで、この度の日本誘致は、全曹青が執行部並びに国際委員会を担当した前期全日仏青にて決定されました。

Crisis Management IBYE Japan 2013と題された本プログラムは、東日本震災にかかる私たちの経験をふまえた実際のボランティア活動やレクチャーを通し、震災に対する正確な理解を深め、命、自然環境、危機管理について、次代を担う青少年とともに学び、その事象を正しく広く国内外に発信していくことを目的に準備されてきました。

IBYE運営スタッフとして全曹青からは、櫻井尚孝会長 (全日仏青副理事長)、岩崎哲秀副会長 (全日仏青理事)、松岡広也顧問 (全日仏青監事)、村山博雅顧問 (全日仏青直前理事長兼国際委員長) ほか全曹青国際特別委員会委員を中心に約20名が参加し、



福島県いわき市で国際仏教徒青年交換プログラム開催

被災地の「今」を国内外に発信



閉会式折には、日本の伝統に習ってと皆で万歳をする一幕もありました。



各国の参加者から頂いたおみやげは、大事な勲章です。

日本を含むアジア5カ国から集まった各国代表者と青少年約80名とともに、必要ゆえに過密とも思われるスケジュールを消化し無事円成いたしました。

プログラムの具体的内容は、1日目は築地本願寺にて国内参加者に対する事前研修を行い、2日目は成田国際空港で海外参加者を迎え、移動とともにいわき市の薄磯、久ノ浜等を視察し被災地の空気に触れ、3日目は現地にてボランティアや復興支援を率先してきた3名の先生方を講師に迎え、現場の正しい情報と知識を学び、4日目はいわき市にある双葉町と大熊町の仮設住宅3ヶ所における行茶 (傾聴) 活動と、ユース参加者と同年代である県立いわき海星高校じゃんがら部との交流会を行い、人とのふれ合いから被災地と心を繋ぎ、5日目は薄磯での慰霊法要を中心に、アクアマリンふくしまやハワイアンズ等復興した施設を訪問し、追悼とともに復興に向かう現地の想いと力を

獲得するというものでした。その他にも朝課や坐禅、復興ドキュメントDVD視聴などもスケジュールに含まれており、連日夜行われた意見交換会では学生達から活発な発言が飛び交いました。

双葉町・大熊町仮設住宅での行茶 (傾聴) 活動

全プログラムの中でその山場となったのは、仮設住宅での傾聴活動でしょう。当日午前中には事前学習として、米澤智秀全日仏青救援委員長より震災後の写真を交えて講義がありました。現在の被災者の方を取り巻く環境や、以前の行茶活動から見えてくる被災者の方とのコミュニケーションの取り方といった実際に即したお話しでした。質疑応答では、参加者から世代差、住まう場所の違いのある中でどのような声掛けを行っていくのがあるのだろうか? などと積極的な質問が出されていました。しかし、仮設住宅に入ればその不安は解消され、皆自然にお話しをしていました。

普段の行茶活動と大きく違うのは、ジェスチャーそして筆談の多さでした。事前学習という私達はテクニックの様なものを手に入れようとしています。また、何度も足を運ぶうちに「慣れ」と「慢心」が顔をのぞかせます。言語も異なり地元の話などできまませんが、なんとか聞き取ろうとする姿、なんとか伝えようとする姿、そこに傾聴の本質を思い出しました。

その後、自ら振り付けを考えたダンスを披露する一幕もありました。実は、研修や現地視察が続くハードなスケジュールの中、参加者はホテルの駐車場でギリギリまで練



着々と進んでいます！40周年事業 『味来食堂～僧食を学ぼう～』 プレ開催

東京の恵比寿駅から徒歩8分、味来食堂の会場「Gusto（ソリッソ）」に到着。ここは、全曹青40周年記念事業の一環である料理教室、『味来食堂～僧食を学ぼう～』の会場である。恵比寿という場所の通りおしゃやれな雰囲気、そして1階にあるガラス張りの為、通りすがりの人々がちらちらと覗いていく中、本番に先立ちプレ開催が9月10日午後18時より青年僧侶4名、女性参加者3名にて行われた。荒木40周年記念事業実行委員長によると今企画の主旨は、「精進料理は一般に対して訴求力の高いコンテンツであり、近年の食に対しての安全・ヘルシー志向により、一層の注目を集めている。本宗の食に対しての取り組みは、新たな布教の可能性を探り、今後の教化の視野を広げることにつながるのではないか」とのことである。

講師は、静岡県興禪寺徒弟松本好寛師(33)。若いながらも料理について大変精通されている方で、教室中に話される料理の豆知識は大変参考になり、参加者もしきりにメモをとっておられた。



説明を熱心に聞く参加者



松本師の丁寧な指導



みんなで美味しくいただきます

今回のメニューは、精進だし・豆腐マヨネーズ・豆乳ごまプリン・かぼちゃのスープ・かぼちゃのトルティーヤ・チリピーンズの6種。松本師の説明を中心に、時には参加者も一緒に調理をしながら教室は進んでいった。特に精進だしの作り方には興味津々の様子。また豆腐マヨネーズには驚きの声も！調理後は、参加者一同食卓を囲んでの会食。

料理の質問があったり、僧侶に聞いてみたいことがあったり、「今度家でも作ってみたいです」との声があったりと、嬉しいかきり。食を通じた新たなつながりが、この『味来食堂』から生まれる予感がした。今後の開催が楽しみである。

取材・文／広報委員 西古孝志

習をしていたのです。東北の夏は意外と暑く、殊にこの日は前日より気温が上がって最高気温29.0℃。強い日差しの中、汗を流しながら練習をする参加者になんとも言えない感銘を受けました。抱き合せて別れを惜しみながら、次の目的地、県立いわき海星高校へ移動しました。

福島県立いわき海星高校での交流会

渋滞も相まって、10分ほど遅れて到着と

なりました。時間が押しているので、一言だけと言って始めた校長先生の挨拶は、これだけで済んだ。「もし、これから地震が起こったとしても慌てないで下さい。ここには教員やスタッフがたくさんいます。パニックにならずに、指示に従って下さい」一言で十分でした。震災は終わっていないのです。この地の方々は震災の只中にいらっしやるのです。参加者の顔から笑みが消え、視線が、耳が、先生の方へ集まった。

そんな瞬間でした。薄磯での慰霊法要

明るく日の慰霊法要。暑く、そして、静かな海でした。悲しいくらい静かな海でした。その海に向かって、御霊泰かれと手を合わせます。導師は伊東政浩全日仏青第19代理事長。引率の各国僧侶の皆様からそれぞれの流れ儀に則った追悼の祈りと読経をいただきました。

取材を通して、始終参加者の方々の発言力と行動力に圧倒されていました。若者の宗教離れや各国との外交的な摩擦等、問題は山積みでもこういうエネルギーに満ち溢れた彼らが、それぞれの国でそれぞれに尽力していく姿が容易に想像できる、IBYEでした。

取材・文／広報副委員長 岡本真宰

災害復興支援部活動ルポ

●第3回災害復興支援部事務局会



9月2日、「曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室」(以下、分室)に於いて第3回災害復興支援部事務局会が行われました。櫻井会長の挨拶の後、報告事項として、(1)こども自然ふれあい広場の報告(福島自然ふれあい広場in長野、こども自然ふれあい広場男鹿なまはげ教室、第2回こども自然ふれあい広場inしまなみ)、(2)ストックヤードの最終報告及びボラサボ基金報告、(3)納経塔・活動の灯の報告がなされました。

次に検討事項として、災害MLの活用、地区連絡員の今後、予算立て、災害地への見舞金について、救援活動のガイドライン、「般若」内災害復興支援部ページ改変、写経・ワークショップについて、話し合いがなされました。

また、分室に於いて、全曹青参加者全員に呼びかけての事務局会が開催されるのは初の試みであり、今後の活動において、新たな足がかりとなることを期待したいと思います。

●行茶活動報告

9月3日午前10時より12時まで、福島市内の仮設住宅に於いて行茶活動が行われました。活動者は、先日分室に於いて行われた事務局会に出席したメンバーのうち9名。参加者は仮設住宅に在住の女性9名が集まってくださいました。2時間という限られた時間の中でしたが、様々なお話を伺うことができました。

「被災した当時は避難所にて毛布1枚で生活していて、引越した仮設住宅に有難みを感じていたが、生活に慣れてくると欲が出てしまう」「仮設住宅が帰る場所である」と最近感じているが、やはり自宅に帰りたいとおっしゃる方、一方で、「帰りたいくない」とおっしゃる方など、思いは様々であると感じました。また、行茶活動のような傾聴活動が段々と少なくなりつつなる中で、とても楽しみに待っていたという声を聞き、これからも、続けていかなければならない、と改めて感じました。



取材・文／広報特別委員 柳沢隆徳

平成25年度

第4回執行部会・理事会 開催報告

●第4回執行部会

9月10日午後1時より、曹洞宗檀信徒会館に於いて第4回執行部会が開催されました。櫻井会長の挨拶の後、総合企画委員会、広報委員会、40周年記念事業実行委員会からの活動報告が行われ、引き続き「観世ふおん」特別委員会からは、11月に福岡県で予定されている「傾聴研修会」について、国際特別委員会からは、8月25日～8月30日に福島県いわき市を拠点に開催された「国際仏教徒青年交換プログラム(I B Y E)」の開催報告が行われました。



その後、災害対策・会務運営全般についての議案審議がなされ、「福島子ども支援プロジェクト(こども自然ふれあい広場)(秋田・長野・四国)」「納経塔・写経プロジェクト」「地区連絡員」「活動の灯」「共同募金会からの協力依頼」について等、理事会にて上程する議案内容について詳細にわたり議論されました。

最後に、11月11日～13日に予定されている臨時評議員会の日程確認、会計・ボランティア基金の状況、ソフトボール大会・管区大会への参加予定などが確認され、監事講評をもって終了しました。

●第4回理事会

執行部会に引き続き、第4回理事会が開催されました。総合企画委員会からは、「花まつりキャンペーン」記念品当選者と記念品の選定、「ご詠歌写経用紙」「納経の証」等について審議され、審議後、その場において「花まつりキャンペーン」当選者の抽選が行われました。

災害復興支援部からは共同募金会からの協力依頼についての議案が上程され、審議の結果、岩手県共同募金会の「赤い羽根共同募金」の活動に全曹青として協力することとなりました。「ボランティア基金の支出ガイドライン」について検討がなされ、「見舞金」「活動支援金」「福島子ども支援プロジェクト」等、被災地支援活動に関する助成金支出に際してのガイドラインが決定されました。

国際特別委員会からは特別委員の人事案が提案され、承認されました。また、福島県いわき市を拠点に開催された「国際仏教徒青年交換プログラム」の報告がなされました。「観世ふおん」特別委員会からは、11月九州傾聴研修会への参加協力のお願いと「電話相談事業」について報告がなされ、次回総会日程等の確認を最後に理事会が終了しました。



現代的「講」モデルの参究

曹洞宗寺院においては、「梅花講」などで馴染みの深い「講」。「講」と聞くと、「観音講」や「地蔵講」のように、「古くて」「旧来のもの」と感じるかもしれません。しかしながら、これまで「講」は信仰を支え、寺院活動の土台となってきました。この「講」の機能を探ることで、今後の教化活動にその機能を活かしていける可能性があるのではないでしょうか？そうした問題意識をもとに、今回より七回にわたり、「講」に焦点を当ててその機能を探り、さらには、現代的「講」の姿を模索してまいります。さて、第1回目は、「講」のあらましについて見ていきましょう。

○「講」とは何か？

「講」は、「ある目的を達成するために結ぶ集団」であり、仏教的講会（法華八講など）が始まりだと言われます。その形態は、一、宗教的講、二、社会的講、三、経済的講（頼母子講や無尽講など）に大別され、一の宗教的講には、教団の支部組織としての講が含まれます。曹洞宗においても「観音講」や「地蔵講」、戦後の「梅花講」によって寺院が支えられてきました。

○「講」成立の条件・「講」参加のメリットは？

伝統的な「講」の成立には、「成員が地域社会共同体の一員である」という前提があり、地縁的な組織が大半でした。また、その成立理由として、「講の社会結合によって個人や家の存立が保障される」ことや、「個人の方には限界があり、絶えず生命や生活の不安に曝される中、その不安から脱出するため、村落社会の中での紐帯を強化する」という点があげられます。また、「講集団に加入することにより、何らかのプラス面の効果がある」という期待や、宗教的講に所属することによる現世利益を期待した面もありました。しかしなが

ら、「講」につきものの「共食（食を共にする）」に参加することで、精神的充足感や連帯感を得、進行役や参加者が「傾聴」してくれることによる「自己肯定感の回復やストレス解消」といったメリットを感じ、「講」に参加している側面があることも想定されるかもしれません。今後、現代的「講」の姿を模索する際には、従来言われてきた「講」参加のメリット以外の部分を探る必要があるのではないのでしょうか。

○「講」の特徴

「講」の大きな特徴は、「加入が強制ではなく随意であること」です。また、「自由・対等の資格で、かつ自由意思に基づいて共通目的のた

めに結集する」といった、自主的な運営が大きな要素となっており、一般的な任意団体に類似しています。一方で、その「自発的、平等的結合による相互扶助性」故に、容易に組織から構成員が抜けやすく、組織を維持する上で安定性に欠けるという弱点があります。

○今、何故「講」に焦点を当てるのか？

これまで、長年にわたり形作られてきた伝統的「講」ですが、人口流動や生活文化の変化による地域や村落共同体の機能低下が進む中、「講」の崩壊に拍車がかかっています。とはいえ、いかなる変化に遭遇しても人間が生存する限り、新しい形態や目的を持った共同体が形成されていくでしょうし、名称は変わることがあっても、講を支えた原理は死滅しないと考えます。ネットを介しての新たな形の共同体の出現などにより、現代的な講として再編成される可能性があります。

これまで、寺院を支える基盤の一つとなってきた伝統的「講」は、地域共同体の崩壊、講員の高齢化などによって衰退してきています。しかしながら「講研究の可能性」の編著者であり、「講研究会」の一員である長谷部八朗氏（駒澤大

学教授）は以下のように述べられています。「教会・結社・同好会サークルなど、たとい『講』の呼称を冠していなくとも、その実質において『講的』性格を具えた集団は存外に多い。本研究会では、『講』という形式よりも、むしろその内実を規定する集団結合の原理に関心を向けたい。叙上の見地に立てば、『講』研究は、より広い分析視座のもとで、新生面を切り開く可能性も生まれてくるのではないか」。

本連載では、同様の視点に立ちながら、「集団結合の原理」に焦点を絞って、宗門の「梅花講」や「観音講」などの「講」、さらには、他教団の「講的組織」や、「ファンクラブ」といった社会的講にまで研究対象を広げ、寺院を支え得る、これからの「講」の姿を模索してまいります。今回は、これまで宗門寺院を支えてきた「梅花講」について見てまいります。

文／広報委員長 長岡俊成
監修／曹洞宗総合研究センター
専任研究員 平子泰弘

【参考資料】

『講集団成立過程の研究』
（桜井徳太郎著・発行／吉川広文館）
『日本民俗学交又三 信仰伝承』
（桜井徳太郎編・発行／朝倉書店）
『「講」研究の可能性』
（長谷部八朗著・発行／慶友社）



現在、曹洞宗寺院を支える代表的な講・梅花講



【第一步】
京都曹洞宗青年会会長
松本亮道師に
会いに行く

新 青年僧がゆく

全曹青関係者の等身大の姿に迫る本コーナー。リニューアル第1回で迫る松本亮道師は、以前からラオス国への支援関係がありつつも、社会主義一党支配体制下という状況の中、京都曹洞宗青年会創立50周年記念事業としてラオス上座部仏教安居研修会を実現にこぎつけた立役者です。ラオス政府、ラオス仏教界との人脈をほぼゼロから作り上げ、SVAアジア地域担当者の協力を得て企画から4年をかけて実現し、20名の安居者を今年9月2日から9日間、一切のトラブル無く導きました。さらには、ラオス国初の日本仏教使節団として、政府関係者出席のもと特別の歓迎を受け、両国友好の架け橋を築かれました。

Q どんな所で安居しましたか？

松本 私たちは首都ヴィエンチャン郊外の農村にあるワット・パーという寺院で、雨安居に参加しました。本堂や2つの集会所、1人から数人用の僧房が森の中に点在しますが、ラオス仏教はタイ仏教系の上座部仏教ですが、伝統的な精霊信仰(ピー)と習合し、寺院が村の生活に深く溶け込み、村の人々も仏法僧へ本当に深く帰依しています。社会貢献として麻薬更生施設で患者のケアに携わり、退院した人を安居者として受け入れることもあります。

Q どんな準備が必要でしたか？

松本 前例のない団体安居のため、ラオスの政治体制下において全てに政府への許可申請が必要でした。現地では政府宗教局へ曹洞宗・当団体・当事業の説明をし、寺院

を一ヶ寺ずつ回り、安居が可能か視察・会談しました。さらに在京ラオス大使と交流を深め、大使を京都へお招きし、事前研修会も開催しました。

Q 安居の様子を教えてください。

松本 仏教徒にとって功德を積む行為は欠かせません。出家は最大の積徳行で一生に一度は出家する事を望みます。家族の為に



出家し、出家による功德を両親、特に母親へ贈るのが一般的です。安居は戒律を守る事がすべての生活で、毎日、朝課・托鉢・小食・中食・晩課を日課とします。さらにお盆のような行持がある時以外は原則、瞑想します。これは瞑想寺であるワット・パーの特徴で、寺院によって経論の学科など様々です。また、僧侶は社会貢献に務めます。

Q 安居中、特に感動したことは。

松本 麻薬更生施設を視察した際、「日本の方法で私達の治療の成功を祈って下さい」と法話・読経を頼まれました。直前までの喧騒がピタリと止み、600人の方がたが聴き入り、中には涙をにじませる人もいて、何とも表現できない空寂な時間が流れました。僧侶のあり方、果たしていくべき役割を強く感じました。

Q 全曹青の会員の皆さんに、最後に一言お願いします。

松本 国や地域、宗派の境界があっても、私たちは仏弟子として繋がっていると実感しました。同時に安居を通じ道元禅師の教えは、作法の違いはあってもお釈迦様より正伝の仏法だと実感できました。当事業実現の為に力添えを賜りました全ての方が、ご助言を賜りました成田大航老師、SVA八木沢克昌氏、ワット・パーと詳細に打ち合わせして下さったスパボン女史、また、賛助いただいている京都府管内ご寺院様方に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

日本仏教と上座部仏教。両者はしばしば違いばかり強調されがちです。筆者も多くの先入観を持っていましたが、「向き合う心、無くして私たちの目指す菩薩行は無い」と、取材を通じてそう反省いたしました。

取材・文／広報委員 長岡宏宗

全曹青40周年

全曹青の足跡を訪ねて(2)



全曹青は、1975年に発足し、今期には40周年を迎えます。このコーナーは、記念の節目を迎えるにあたって、改めて全曹青の成り立ちや規模、その想いや歴史を探っていく連載です。

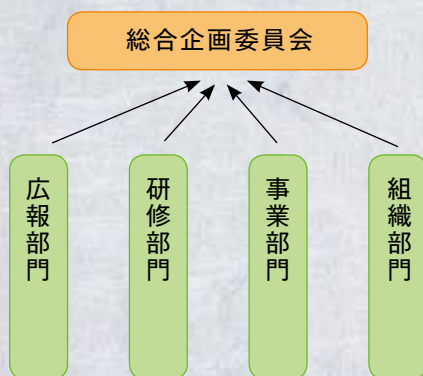
■全曹青結成なる

1975年11月26日、ソートビル3階大会議場で曹洞宗青年会(以下、曹青)結成大会が開催された。

設立推進の経過報告、設立趣旨・目的並びに会則の承認の後、門脇允元師を会長とする副会長・理事・監査の新役員が満場一致で選出され、新役員による第一回総会が開催された。1976年～1977年(昭和51年及び52年)を第一期とする予算案と事業計画案が提案され、事業計画案については

- ・ **組織部門** (会員組織委員会と地方集会実行委員会)
- ・ **事業部門** (巡回教養セミナー、青年宗侶のための教養セミナー、国際仏教文化交流、木喰展、青年の船、各委員会)
- ・ **研修部門** (禅のつどい、子ども禅のつどい、サークル活動、参禅会、各推進委員会)
- ・ **広報部門** (広報委員会)

・ **総合企画委員会** (本会講師と各部門委員で構成、総合的な企画と各部門の調整推進)の五部門編成が提案・承認された。



基本理念は「護持会的教団」寺檀関係でのみしか命脈を保ちえない教団から大衆教化教団への脱皮」とし、年間メインテーマを「大衆教化の接点を求めて」と設定し、大衆教化を成し遂げた先達の足跡を辿る巡回教養セミナー(近畿・東海・九州・東北・北海道・北陸の6回開催、開催を中心に、「国際仏教文化交流使節団」の派遣、小・中学生を対象とした「青少年の船」などの企画案が提案・承認された。

審議の合同に行われた記念講演は、仏教詩人として著名な坂村真民先生を招き、「念ずれば花開く」の演題で行われた。「一心に念ずれば、必ず自己自身の活路は開かれる。が、これだけでは本物ではなく、

自己が生き、同時に他とともに生きるという共感の世界のあることを知らねばならない。日本人にはこの心が欠如しているのではないか。未来を目指す青年にとって、この『ともに生きる』という一念が最も大切である。」

と坂村先生は講演され、曹青の前途を激励された。

■大衆教化の接点を求めて

結成大会によって本格的に活動を始めた曹青は、事業計画に従い多くの事業を準備・開催していく。

【教養セミナー】

・ 1975年11月27日

場所：曹洞宗務庁

【巡回教養セミナー(地方集会併催)】

・ 1976年3月12～13日

巡回教養セミナー(近畿地方集会同時開催)

場所：奈良県三松寺

・ 1976年4月15～17日

巡回教養セミナー(東海地方集会同時開催)

場所：岐阜県高山市(民宿)

・ 1976年11月9～10日

巡回教養セミナー(東北地方集会同時開催)

場所：岩手県正法寺

場所：千葉県存林寺

・ 1977年5月25～26日

巡回教養セミナー(九州地方集会同時開催)

場所：大分県青年会館

・ 1976年11月29～30日

巡回教養セミナー(曹洞宗務庁)

場所：曹洞宗務庁

・ 1977年5月20～21日

巡回教養セミナー(曹洞宗務庁)

場所：曹洞宗務庁

・ 1976年6月21日～26日、106名参加

巡回教養セミナー(韓国仏教文化交流使節団派遣)

第一期曹青により開催された行事のみをご紹介いたしました。が、発足したばかりの組織が2年弱の間にこれだけの行事を全国で開催できたのは、門脇会長を中心とした役員各位、常任講師のご協力に加え、地方集會に参集した当時の青年宗侶の情熱の賜物ではないかと思えます。

「大衆教化の接点を求めて」を目標に、先ずは全国組織としての地盤固め、そして青年宗侶対象の研修によって大衆教化へのアプローチを探る時期を経て、その後の活動に反映されていきます。

文／広報副委員長 宮入真道

災害復興支援部 ニュースレター



まず、今年の夏から秋にかけて水害や竜巻などで被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。それに伴い、各地域で復旧活動に従事されている会員諸兄にはお盆・お彼岸とお忙しい中、本当にお疲れ様でした。

今年の夏はとくに各地でゲリラ豪雨や台風による水害が多発した。また日本ではあまり発生することのなかった竜巻による被害も起きました。テレビのニュースや新聞で見る被災地の状況に目を覆うことが本場に多い年になります。

さて、そのような状況の中、全国曹洞宗青年会(以下、全曹青)災害復興支援部(以下、支援部)が行なっている災害メーリングリスト(ML)には、被災地の会員より多くの情報提供メールが寄せられ、ニュースや新聞などでは把握出来ない各地の曹洞宗寺院の被害状況や各地の詳細な被災状況が送られて来ました。また被災後は各都道府県の支援要請や活動内容が寄せられ、状況把握に本場に役立ちました。

支援部ではこの第20期に「地区連絡員体制の確立」を課題に活動を行っています。地区連絡員は現在、全曹青執行部参加者と管区理事が任に当たっており、主な活動内容は災害の発生時、自



身の安否情報を含む被害状況を発信します。携帯やネット利用が可能な状況であれば災害MLで発信し、携帯やPCを含むライフラインが不通の場合は回復を待つ間に情報収集にあたります。災害が管区内に起こった場合、管区内の地区連絡員は早急に各県の被災状況の把握に努め、さらに被災地の曹洞宗寺院の被災状況や安否確認に努めます。また管区外の地区連絡員は災害MLを常時確認し、各曹青会などへ情報提供を行います。

地区連絡員や災害ML登録者より発信された情報は支援部で精査し、情報の混乱が無いように努めます。また曹洞宗東日本大震災災害対策本部支援室分室と支援対策の協議を行い、その

内容を発信します。このような地区連絡員の体制を確立することで、全曹青の存在意義である連絡協議体というスケールメリットを最大限活かすことができ、さらには各管区並びに地元曹青会との連帯を密にし、災害時は必要かつ正確な情報の収集を行い、支援部や地区連絡員や曹青会員と情報の共有が出来るのです。

しかしながら現在の体制は、まだまだ未完成です。すべてにおいて上記のような対応が速やかにできる訳ではありません。何の情報をもどのように取得してどのように伝えるかなど学ぼうとが沢山あります。今後は研修会を開催し、執行部参加者のみならず多くの曹青会員と一緒に平時から出来ることを考え、今後起こりうる災害に備えてまいります。

皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

災害MLの登録は
全曹青ホームページ
「般若」から登録いただけます。
<http://www.sousei.gr.jp/>

文／災害復興支援部事務局次長
酒井泰寛

願いをひとつに 写経プロジェクト

まず、写経をご奉納いただいた皆様に、深く感謝申し上げます。

1500部を超える、願いのこもった写経用紙を、9月11日より10月27日まで、福島市の浄土平ビジターセンターで展示させて頂いていただきました。紅葉の始まった浄土平に訪れる多くの観光客の皆さまに展示をご覧いただき、想いを届けることが出来ました。会場内に置かれている感想ノートにも、悲喜交々の想いが綴られておりました。引き続き、皆さまからの想いの詰まった写経をお待ちしております。



face of 全曹青

総合企画委員会



■愛知県第一曹洞宗青年会

総合企画副委員長 岡島典文

愛知県第一曹

洞宗青年会より参加の岡島です。この度が2



期目の全曹青、総合企画委員となりませす。

副委員長という大役を仰せつかりました。が微力な身です。皆さまの智慧・お力をお借りしながら、この2年間を全うしたいと思ひます。

この第20期は全曹青発足40周年を迎える節目の期ともなります。節目の第20期の委員であることに恥じぬよう努めてまいりたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

■佐賀県曹洞宗青年会

総合企画委員 角田仁哉

佐賀県曹洞宗青年会より参加させていただき、角田仁哉でございます。



なにぶん初めての参加でございますので至らない処が多々あります。

りますが、総合企画委員会の運営が円滑に進みますよう、精進させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

■四国地区曹洞宗青年会

総合企画委員 宮本隆弘

前19期より引き続き、総合企画委員として

参加させていただいております。



原委員長を中心として、頒布活動をよりたくさんの方に周知していただき、また新たな企画立案をしていきます。さらには災害復興支援活動、周年事業等、執行部、広報委員会、40周年記念事業実行委員会と連携し、会発展に努めてまいります。よろしくお願ひ申し上げます。

■北海道第二宗務所青年会

総合企画委員 栗原祥弘

この度、第20

期総合企画委員として参加いたします。北海道



第2宗務所道弘寺副住職・栗原祥弘でございます。総合企画委員会は委員相互で様々な企画の立案を創り上げ、それが形となって全国各寺院様そして各種信徒の方がたへと繋がる大変重要な役割を担っている委員会と理解しております。今後も全曹青がより身近に感じていただけるよう微力ながら努めて参る所存です。どうぞ2年間よろしくお願ひいたします。合掌

■曹洞宗長野県第一宗務所青年会

総合企画委員 酒井泰寛

第20期の総合

企画委員を務めさせていただきます。同時に災害復興支援部事務局次長も仰せつかりました。



私の役目は総合企画委員会と災害復興支援部の活動をリンクさせ、櫻井会長の掲げたスローガン「繋がる想いが未来を拓く」に沿った復興支援活動が出来るよう努めることです。

まだまだ先の見えない復興支援ですが、総合企画委員会の企画する頒布事業やワークショップ活動を通して少しでも被災地の方がたに寄り添えるように頑張つていきます。

■茨城県曹洞宗青年会

総合企画委員 小原智弘

今期から全国

曹洞宗青年会に参加させていただいております。



す、茨城県祇園寺小原智弘でございます。

総合企画委員に配属になり、委員長の原さんをはじめ、委員各位の皆さんとコミュニケーションをとりながら、自分の仕事をこなしていければと思っております。

今期は全国曹洞宗青年会発足40周年ということで、皆様の熱気に負けないよう精進弁道していきたくと思っております。よろしくお願ひいたします。

■岩手県曹洞宗青年会

総合企画委員 日向真字

岩手県曹洞宗

青年会より参加させていただきます。また、日向真字



学です。参加させていただいてから早半年、初めての事だらけで委員会の皆さんにご迷惑をかける事とは思いますが、全身全霊がんばって行きたいと思ひます。何卒よろしくお願ひいたします。

曹洞宗僧侶の有志による電話相談窓口です



ひとりぼっちと思わないで…
どんなことでもお電話で
ご相談下さい。

Tel 080-1546-7464

Tel 080-1547-5646

毎週日曜 22:00 ~ 24:00

※相談料は無料(通話料は必要です)

両大本山御用達
梅花流法具販売指定店

法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品

株式会社 梅金商店

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

〈本社〉〒460-0011 名古屋市中央区大須三丁目39番33号

(大須交差点東北側)

TEL(052)241-0901(代表) FAX(052)241-1904

編集後記

IBYEの取材を終え、帰路にあってもまだ熱気が冷めません。

連日深夜まで打合せを重ねるスタッフの方々、そのスタッフよりも遅くまで対話を続ける参加者達の姿が思い起こされます。取材者としては、参加者と同じ様に振る舞うわけにも行かず、まるで対岸の花火を見ているような眩しい日々でした。

そこには、日本の若者が失ったように見える情熱や率直さがありました。

「ように見える」としたのは、参加されている日本人のスタッフも、情熱的な指導者の前では素晴らしい笑顔を見せていたからです。

そんな熱気が伝えられましたら、幸いです。

自己を振り返るに「仕事の楽しさ」や「情熱」は、後進に伝えるべき大事なことであったと痛感いたしました。

(広報副委員長 岡本真幸)

■表紙の話



修行道場を乞暇し、諸国行脚の途中に立ち寄った温泉街の足湯。そこで生まれた、女将さんたちとのふれあいの場面を描きました。大衆と共に歩いていく、そのスタートラインに立った雲水。

彼は一体どこへ行くのか？
その行方にご期待ください。

表紙撮影：谷杉アキラ氏
協力：下風呂温泉女将の会、
海龍山自由寺



大本山永平寺にて、佐藤好春監院老師とともに



大本山總持寺にて、乙川暎元監院老師とともに

全国からの願いを御奉納 今年も花まつりキャンペーン



今年度も『花まつりキャンペーン』と称し、甘茶・花の種などを同封した教化資料を頒布いたします。

総頒布数は25,000セット

余りと好評のうちに終わりましたこと、全国御寺院様の当会に対する御理解の賜と存じております。

当キャンペーンでは、同封の返信塗り絵ハガキに願文を書いていただき、両大本山へ奉納してまいります。

上は90歳以上から下は2歳まで、北は北海道から南は九州まで、

年齢・地域を問わず多くの方々から、様々な動物たちに囲まれたお釈迦さまのイラストに願いを込めて、塗り絵ハガキを返信いただきました。

その中には、「サッカー選手になりたい」等の自分の未来を願うものから、両親の健康を願う子どもから親への想いが綴られていたり、被災地の復興と被災者の安心な暮らしを祈るものまで、さまざまな声がありました。

その一つ一つに一人一人の背景と想いが込められ、受け取った私

どもにも感銘を与えてくれました。そんな多くの想いと願いを込めて、東海・北信越・中国・四国・九州管区のハガキを大本山總持寺へ、北海道・東北・関東・近畿のハガキを大本山永平寺へ、謹んで御奉納させていただきましたこと、紙面を借りて御報告いたします。

来年度も装いを新たに『花まつりキャンペーン』を実施いたします。教化の一端を担えるよう、御活用いただければ幸甚に存じます。

